2026 年に起きること — 2025 年から続く変化の正体

2025 年は、多くの分野において、これまで水面下にあった課題や歪みが、断続的な事象として表面化した年でありました。市場の急変、制度やルールの揺らぎ、想定外とされてきた事象の頻発——それらは偶発的な出来事ではなく、長く蓄積されてきた構造的要因が、ついに可視化された結果であったと見るべきでしょう。

2026 年は、その動きが「一過性の混乱」から「前提の書き換え」へと移行する年となります。2025 年においては、まだ例外や特殊事例として受け止められていた変化が、2026 年には常態として受容され、従来の判断軸そのものが再定義されていきます。

昨年、世界各地で同時多発的に生じた不安定要因は、個別に理解することが可能であるかのように見えました。しかし 2026 年においては、それらが相互に連動し、単一の視点では捉えきれない複合リスクとして立ち現れてきます。政治・経済・技術・規制といった領域が交錯する中で、意思決定に求められる精度と深度は、明らかに一段階引き上げられています。

情報環境においても、2025 年は「情報が多すぎる年」でありましたが、2026 年は「情報の意味が問われる年」となります。断片的な速報や表層的な分析だけでは、本質に到達できないことが、昨年の経験を通じて多くの組織に共有されました。その延長線上にある 2026 年は、事実の裏にある背景や意図を読み解く力が、企業の命運を左右する局面に入ります。

変化は、突然起きるものではありません。2025 年に始まった問いは、2026 年において、より明確な輪郭をもって私たちの前に現れます。私どもは、その問いに真正面から向き合い、確かな意思決定を支える知見を提供し続けてまいります。